

個人差を乗り越える香りデザイン: 香りと情動を 連合させた自伝的記憶想起の実験的研究

花王株式会社 感覚科学研究所 杉山 東子

1. はじめに

人は様々な場面で香りを経験している。多くの場合、香りは単独で経験されるのではなく、その香りが存在する環境や文脈、その時の気分とともに経験される。こうした経験を通じて、香りと文脈情報や情動が結びつき、連合が形成されると考えられる。そして同一あるいは類似の香りを再び嗅ぐと、結びついた情報が無意識的に想起され、情動が変化したり関連情報が次々と思い出されたりする。これが、香りを手がかりとした記憶の想起であり、想起される内容が個人の思い出やエピソードであれば、自伝的記憶となる。

自伝的記憶が想起される手がかりは、写真や音楽、言葉など様々であるが、特に香りを手がかりに呼び起こされる自伝的記憶は、鮮烈な想起体験や強い情動を伴いやすく、いわゆる「プルースト効果(プルースト現象)」として知られている。香りを手がかりにした自伝的記憶想起と情動の関係に関する認知心理学的な研究としては、自伝的記憶を想起させるきっかけが香りであった場合に、言語ラベルやほかの感覚をきっかけとした場合に比べて、関連する情動が鮮明に喚起されること^{1~4)}、香り刺激と想起された自伝的記憶の情動一致性⁵⁾などが報告されている。さらに、香りによる自伝的記憶想起の特性を説明するOEAMQ

質問紙の開発において、1つの因子として情動性が抽出されること、またその重要性が報告されている⁶⁾⁷⁾。

我々は化粧品・トイレタリー製品分野において、香りによる自伝的記憶想起の特性やその効果について、情動特性に着目し、基礎的研究と製品文脈を取り入れた実験的研究の両面から検証してきた。例えば、香りが快いと感じられ、かつ快い自伝的記憶が想起された場合には、単に香りが好ましいだけの場合に比べて、製品に対する嗜好や製品性能評価が向上する⁸⁾⁹⁾。また、ポジティブな自伝的記憶を強く想起させる香りが呼吸リズムのリラックスや免疫関連内分泌物質の変化に関連することを示唆する心理生理効果をもたらすことが報告されている^{10~12)}。これらの知見を製品の香りに応用できれば、製品使用時に生活者にポジティブな自伝的記憶を想起させ、情動体験を高める可能性が期待できる。

一方で、自伝的記憶は個人の体験に基づくため、多くの生活者に共通してポジティブな記憶を想起させる香りを一義的に特定することは容易ではないという問題がある。従来の研究でもこの個人差を前提に、想起の強さで実験参加者を分類する、あるいは個別に最も自伝的記憶を想起できる香りを選定するなどの手法がとられてきた^{8~10)}。この問題を解決する新たな方法として、我々は、香り

と文脈情報や情動との連合学習の設計を、製品文脈に組み込むことを考えた。

本研究では、個人差の影響を低減することを目的に、製品使用文脈で特定の香りにポジティブな情動体験を結びつけ得るステップによって、香りによりポジティブな自伝的記憶が想起されるように構築できるか、また従来報告された香りによる自伝的記憶想起の効果がこの手続きでも得られるかを検証した。このため、社員（対象者1）とその年上の女性近親者（対象者2）を対象に、二段階の香りギフトという介入を行った。第1のギフトは香りと情動・記憶のネットワークを形成する連合学習の役割を果たす。対象者1が家族写真などで装飾した香り付きノートを離れて暮らす対象者2へ贈る。対象者2はノートを見るたびに家族の思い出や親愛などポジティブな情動が喚起され、その情動と香りが結びつくことが期待される。続く第2のギフトとして、第1のギフトと同一の香りを付した製品（入浴剤）を対象者2に贈る。対象者2が入浴剤を使用するたびに、連合されたポジティブな情動や記憶が想起され、日常における気分や主観的健康感などの評価が向上することを仮説とした。

2. 方法

2.1. 対象者

本研究には、ギフトを贈る役割の対象者1（社員）と、ギフトを受け取る対象者2（女性近親者）

トの香りが同一）と統制群20名（第1のギフトと第2のギフトの香りが異なる）に割り当てた。

2.2. 材料

2.2.1. 第1のギフト：香り付きノート

香り付きノートはA5判38ページで、見開きの左頁が写真貼付や書き込み用、右頁が日誌となる構成であり、15日間の記入ができるようになっていた。裏表紙の内側には香りビーズを封入したプラスチック製カプセルを貼付した。香りビーズにはローズの香り（連合学習群）または柑橘系の香り（統制群）を十分に嗅げる濃度で付与した。カプセルはドーム型で直径約3 cm、高さ約1 cm、表面に直径約1.5 mmの小穴が5個開けられていて、随時香りを嗅げる仕様とした。

2.2.2. 第2のギフト：入浴剤

市販のローズの香りの入浴剤を無色のアルミ袋に封入し、計14個を緑色の不織布袋に入れてギフトとして用意した。

2.3. 手続き

対象者1は、家族の思い出の写真や近況を伝える写真を貼付し、絵やメッセージを書き込むなどして香り付きノートを作成し、対応する対象者2に送付した。

対象者2は、[a]～[e]の5つの工程に参加した（図1を参照）。[a]はベースライン計測を目的とした第1回質問紙で、直近2週間の気分及び

これ以降の閲覧を希望の場合は、本誌をご購読ください。